（様式1）　　平成　26　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2894700034		
法人名	株式会社カマダグループ		
事業所名	グループホーム家族の家		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区一日市926番地		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者さんがご自宅で暮らしておられる様な生活を送れる事をモットーとしている。
・利用者さんにとり、安心で心地よい介護に努める。
・近くに日本海・香住の町並みと絶好のロケーションに囲まれ、自然散策にも事欠かさず。また近くには香住病院・消防署もあり、緊急時においても安心・安全な好立地「香住山手地区」に位置してます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

①本人本位の暮らし実現・・『その方がその方として、その方らしくお暮しになられるようお支えします。』を事業所理念とし、『安心と尊厳』に護られ『あるがまま』の生活を『地域住民の一員として』過ごせるよう職員一同が同じベクトル目指して取組んでいる。**②豊かな日常生活・・**家族やボランティア協力による季節行事やレクリエーション、頻度の高い少人数での外出レクリエーション（出身地域へのお祭りや法要、ドライブ、花見、季節の催し参加等）、高校生ボランティアと出かける地域巡り等、適度な刺激となる非日常を演出し、生活にアクセントをつけている。**③社会貢献・・**町と連携しての障害者支援（日中一時支援）や緊急措置入所支援（一部屋）を行っている。また、トライやるウィークの受入れや認知症ケアについての勉強会（運営推進会議において）も実施している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その方らしくお暮らしいただけるよう個別ケアを意識しながら接しています。悩んだ時の尺度としてすべてのスタッフが共有し実践しています。	『本人本位のケア』の実践を目標に、全職員が「その方がその方としてその方らしくお暮しになられるようお支えします」（事業所理念）達成のため同じ士気を持ち、支援に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の秋祭りには、神輿が事業所まで来て下さり、ご利用者の希望によりお神酒の提供をさせていただきました。 休憩場としても利用していただきました。	地域行事（いきいきサロン、餅つき、祭り等）や防災訓練への参加、近隣の子どもたちとのふれあい（日中の一時支援）、近隣スーパーでの買い物、トライやるウィークや地域ボランティアの協力等、地域との係わりは年々深くなってきている。	地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日中一時支援、 授業の一環としての高校生体験活動も受け入れ、ご利用者さんの楽しみのひとつとなっています。本年度は、緊急措置入所の方を受け入れさせていただき、良い経験となりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、区長様より防災訓練のあり方をご指導していただきました。また、活動に対しては、毎回、アドバイスをいただきサービスの質の向上に活かしています。	会議では事業所情報のみの報告ではなく、権利擁護、認知症ケア、衛生面・安全面、地域交流等、様々なテーマについて意見交換等を行い事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	香美町高年福祉課、地域包括支援センターとの協力体制は保たれています。 開所時より、相談、ご指導をしていただいています。	町との連携は深く、事業所を緊急入所支援や日中一時支援の「場」として提供している。事業所運営についても日常から情報共有している。地域ケア会議にも出席し、地域包括支援センターとも連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を行いすべての職員が身体拘束を行わない方針を定め、チェックシートを使い、日々、自己を振り返っています。 玄関の施錠は、ご利用者が不穏な時は、日中でも行っています。	事業所内研修・勉強会、事例検討を定例会議において実施し、入居者の行動を抑制するようなことの無いよう努めている。（特に日頃からの職員の何気ない声掛けの段階から『スピーチロック』に繋がらないように留意している。）	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	接遇研修を受講した職員による職場内研修を行い、尊厳あるおもてなしの心で寄り添い、方言も含み、言葉使いには注意しています。	外部研修及び事業所内伝達研修を通じて、認知症高齢者への支援の「いろは」を「不適切なケア」防止のレベルから再確認している。職員のメンタルヘルスについても配慮している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用されている方があり、職員も必要性を感じていますが、定期的に研修を行っていないため、おおまかな理解となっています。	権利擁護に関する制度を活用している方が現在1名おられる。職員は、権利擁護等に関する制度活用が、認知症高齢者への支援の一方策として有効である点については理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時におおまかに説明をし、契約書を持ち帰っていただき、次の面接時に十分な時間を掛けて説明をし、納得の上で契約を交わしています。	契約前に、見学・質疑応答、事業所の現況・運営方針等を契約関連書類含めて丁寧に説明し、疑問・不安がない状態にして契約を締結している。重度化・終末期への対応方針についても説明し理解いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への通信でご利用者の近況報告や行事の写真を添えてお知らせしており、施設を訪れるご家族の回数も増えています。	運営推進会議、家族懇親会、来訪時、電話、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。頂いた意見等へは直ちに検討し、フィードバックしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日々のケアの中で、その都度、意見や提案を聴取しています。できることは検討し、反映に繋げています。	月例会議の場や個別面談を通じて職員からの意見・提案を吸い上げている。業務面の改善や入居者支援のための環境整備等、多くの事案について意見等が具申されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の設備や残業手当等の労働環境を検討し、配慮しています。 職員のやりがいに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も研修参加は、管理者からの指名により全員参加しました。 受講した内容を職場会議で発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方が、頻繁に訪れ、お話や踊りを披露してくださいます。職員にとって刺激になり、ケアの相談、指導も行っていただいています。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中での発言や行動、表情から、本人の思いを汲み取れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にメールやFAX番号を伺い、ご本人の様子など初期には、まめに連絡をとるようにしています。 要望を聞き出しやすい関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用前の面接時、ご家族との対話を重視しています。 また、センター方式のシートを記入して戴くことで、困り事を的確に知るようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしてあげるという気持ちから、一転してお手伝いさせてくださいという気持ちに変化してきたことは、改善の1つになるのではと感じております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会来訪時には担当職員との面談も勧奨し、ご家族と利用者さんの絆づくりの一環として「共に考える姿勢」を保持したいと努めています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に「私の歴史と暮らし方シート」を記入していただき、馴染みの人や場所についての情報収集に努めています。 訪問していただきやすい雰囲気作りに努めています。	家族との外出（買い物・食事・温泉）や外泊、友人・知人の訪問、出身地域へのお出かけ（祭り、ドライブ）等、今までの「暮らし感」ができるだけ長く継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、お世話し合っておられることを大切にしています。ご夫婦の方もおられますが、他のご利用者との関係は良好です。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族にその後の状況をお聞きしたり、入居先へ面会に行かせていただいています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、できること、できないことを把握するように心がけています。 言葉で表せない方は、仕草や表情から気持ちを理解できるよう努めています。	入居者個々との日々の係わり（会話、言動、仕草・表情等より）の中から、それぞれの思いや意向を汲み取っている。キャッチした情報は、申し送り、連絡ノート、カンファレンス等を通じて職員で共有している。	入居者の表出している意向等を支援記録に落とし込み、更なる本人本位の支援に繋がるように期待をします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の生活史シート」を、ご家族に記入していただくことで、できるだけ多くの情報を収集しています。 その後の日常会話の中からも情報を得ようと努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活ペースで過ごしていただくため見守りのみを行う場合もあります。 過度な介助をしないように配慮しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常のご利用者の様子はケース記録に記入していますが、介護計画書に沿った支援記録、モニタリングにつながるよう努めているところです。	入居者の思い・意向、家族の要望に職員・医療従事者の意見を踏まえ、現況にマッチした有用性の高い介護計画を作成している。ケアカンファレンスは毎月実施している。	一人ひとりの介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者一人ひとりの日々の様子を個別に記録しており、気づきや情報を共有し、ご本人の望むサービスに近づけるよう介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者はもとよりご家族にも満足していただけるよう、通院支援、買い物支援など、できる限りのお手伝いをしています。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の出身地区のお祭りには、できる限り参加しています。地域の方の優しさに触れることで、地域の一員であることを感じていただいています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診されており、基本的に家族対応をお願いしていますが、困難なケースが多く通院介助しています。	相当数の方が入居前からのかかりつけ医を継続しておられる。受診支援（通院介助）は家族と協同し、緊急の場合も家族と連携を図りながら取組んでいる（協力医は、香住病院）。	受診において家族の協力が全く期待できない状況の際は、本人の健康管理の継続を重視するため、遠方の医療機関関係者や家族と良く相談して近隣の医療機関への転医等も視野に入れては如何でしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調の変化があった際、併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な処置や受診が受けられるようにしています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は家族との連絡を密にし、お見舞いに行き、本人の様子を知るようにしています。退院後の生活を家族と相談しながら対応しています。	入院中は、入居者の不安軽減、家族との連携強化のため頻度を上げて面会している。病院とは早期退院を前提に情報を共有し、退院時には、、予後に不具合が生じないよう医師・家族と情報共有及び相談している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療的処置(入院治療)が長期に必要になればグループホームでは対応できない事を伝えています。 自然な形でのターミナルは行っています。	重度化・終末期への対応としては、ご本人にとって望ましいケア・「生」となるよう関係者（本人、家族、医療従事者、事業所等）で相談・検討し取組んでいる。昨年度は、1名の方をホームで看取らせて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応については、消防署等指導の下に緊急マニュアルを作成し、実地訓練に取り組んでいます。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下での消防訓練を年に1度、事業所単独での避難訓練を1度行い、全職員が防災意識を高められるように努めています。	年2回の消防・避難訓練（日中帯・夜間帯想定）を実施している（消防署の立会いあり）。区長と連携を図り有事には協力頂ける体制作りを進捗している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行い、不適切な言葉使いやケアについて職員同士で注意しあっています。ご利用者の尊厳を尊重するため意識改革に取り組んでいます。	入居者個々人の現況並びに自尊心・羞恥心に十分配慮しながら、今までの暮らしで培ってこられた事柄（習慣・技能・趣味等）が維持・継続できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の半数が、自己決定できるため、食事のメニューは、その日のご利用者の希望で決めています。散歩やドライブもその日の要望に添えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合に合わせることなく、ご家族や知人と過ごす時間を持ち続けていただくことを大切にしています。 毎週、娘さんと外出される方もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の移り変わりには、ご家族にお願いして衣類の入れ替えをしていただいています。 行きつけの美容院を利用する支援やホームにて理容師によるサービスを受けられています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取入れたり、お誕生日には、本人のご希望の献立にしています。おやつは手作りに心がけ、後片付けも利用者と一緒に行っています。	時には、入居者とともに献立を決め、下拵えや調理、盛付け、後片付け等を職員と一緒に会話を楽しみながら行っている。定例の外食・出前やイベント食手作りおやつも楽しみにしておられる。	開設以来から努めておられる家庭的な手作りの食事の提供（献立・買物・調理）を、今後も継続されることに期待をします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎回、記入しています。 食事量の少ないご利用者には、できる範囲ですが、お好きな物を提供させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員(歯科衛生士)を中心に取り組み、誤嚥性肺炎予防のため声かけや介助により清潔保持に努めています。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、早めのトイレ誘導を行うなど、尿意等残存能力保持を大切に取り組んでいます。	入居者個々人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。夜間帯もその方の排泄リズムやADLに応じた排泄支援に努めている（トイレ誘導、ポータブルトイレ設置、パット交換等）。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけながら個々にあった緩化剤の調整をしています。 果物を提供する回数を増やしたり、水分摂取量の確保に努めています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、一日おきに入浴の機会を持っていただいていますが、三分の一の方が毎日、お好きな時間に入浴されています。	週3～4回の入浴を基本に、希望者は毎日入浴も可能なように取組んでいる。ゆっくりゆったりとした時間となるよう職員との会話を楽しんだり、季節湯も実施している。家族と外湯に行かれる事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方らしく、お暮らしいただけるよう個々の生活ペースで、休んでいただいています。 居室の位置も配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切に服薬できるよう手渡しし、服薬されたことを確認している。 薬が変更になった場合、体調に変化がないか職員全員で注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの特性、趣味を把握し、洗濯物たたみ、食器拭きなど役割を持って頂き、野菜を切ったり、得意な巻き寿司作り、おはぎ作りもしていただいています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の要望により、タクシーに乗り、近くの娘さん宅へ行かれる外出支援を行っています。今まで、行かれていたデイサービスの茶話会への外出支援も行っています。	日常での散歩や草花への水遣り、買い物等、外気に触れる機会は意図的に採り入れている。ご本人の出身地域でのお祭りや法要、ドライブ等、本人の意向やADAL状況に少人数での外出レクも定着してきている。	個々の入居者のADL状態に応じた個別支援（外出等）を通じての地域の方々との交流を今後も継続して頂くことに期待をします。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブがてら、買い物ツアーに行き、自由に買い物していただいているが、お金は、立て替えさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お誕生日、母の日など、ご家族から送られてきたプレゼントに、お礼状を書いていただく支援をしています。、不穏時には電話を架けさせいただけるよう事前にお願いしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつスペースに面する窓から四季折々の景色が望め、天井も高く開放的で風船バレーが楽しめる。季節感は折り紙で季節に合った花を作って飾っています。	落ち着いた玄関口、木の温もりのするフロア、高い天井、掘りごたつ仕様の小上がり、壁面には皆で作った大きな季節飾り、大きな窓から見える風景等、ゆっくりとした時間がながれ、心地よく過ごせる雰囲気が醸成されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースに大き目の堀こたつがあり、2～3人の気の合った方たちが集り雑談されています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしさが出せるよう仏壇を持って来られたり、今まで、読まれていた新聞をとりたいと要望があれば、自由にしていただいています。	使い慣れた馴染みのもの（家具・ソファ、テレビ、仏壇・位牌、お人形等）の持ち込みや畳敷き等居心地の良い居室なるよう支援している。ADLの変化へも家族と相談しながら環境整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止に備えバリアフリーになっており、ドアはすべて引き戸方式を採用し、少しの力で開閉でき、洗面所等も幾分か低くなっており環境整備に努めています。		